

# 「ひとり学習」成立史研究（1）

## —古賀一公の教育・研究業績—

高 山 芳 治

ひとり学習は古賀一公が福岡市立住吉小学校の4年生を担当していた1974年（昭和49）6月28日に誕生したといわれている。その後、ひとり学習の実践者や賛同者は増えていった。福岡ひとり学習の会は2004年（平成16）3月に閉会するが、2001年（平成13）度の会員名簿には、106人が会員として、登録されている。会員のほとんどは小学校の教諭や元教諭であるが、中学校教諭、大学の教員や元保護者も含まれている。閉会后、小学校でひとり学習を実践する教師は、残念ながら、減少していった。

1931年（昭和6）5月5日に生まれた古賀一公は、2013年（平成25）5月5日に、82歳で逝去した。ひとり学習の成立・発展を明らかにするとともに、古賀の足跡を記録として留めたい。

### 1. 古賀一公の教師歴

古賀は1950（昭和25）3月福岡県立修猷館高等学校卒業後、同年4月に福岡学芸大学（現福岡教育大学）に入学し、1954年（昭和29）3月に卒業した。なお、在学中に教育心理学者の大賀一夫との出会いが、その後の古賀の教育実践や研究に大きな影響を与えた。1954年（昭和29）4月から、1986年（昭和61）3月に54歳で退職するまでに勤務した小学校は以下の通りである。<sup>(1)</sup>

1954年（昭和29）4月～1961年（昭和36）3月 福岡市立三宅小学校

1961年（昭和36）4月～1965年（昭和40）3月 福岡市立今津小学校

1965年（昭和40）4月～1971年（昭和46）3月 福岡市立大名小学校

1974年（昭和49）4月～1979年（昭和54）3月 福岡市立住吉小学校

1979年（昭和54）4月～1986年（昭和61）3月 福岡市立今宿小学校

なお、この間、1959年（昭和34）4月に福岡学芸大学専攻科教育心理学科に入学し、翌年（昭和35）3月に終了している。また、1972年（昭和47）4月～1974

年（昭和49）3月までの3年間、福岡県教育センター教育相談研究主事として務めている。この3年間に、後にひとり学習と呼ばれる学習者を中心にした学習方法の理論的枠組みが形成されたと思われる。

## 2. 研究業績

古賀が残した研究業績は以下の通りである。<sup>(2)</sup>

### 〈著 書〉

1. 古賀一公・福岡ひとり学習の会編著 『「ひとり学習」の授業入門』 明治図書 1985年 189頁.
2. 福岡「ひとり学習」の会・古賀一公編著 『自己実現力の成長の援助—精神的自己実現のための教育目標—(上)』 学援社（草稿） 1994年 106頁.
3. 福岡「ひとり学習」の会・古賀一公編著 『自己実現力の成長の援助—精神的自己実現のための教育目標—(下)』 学援社（草稿） 1994年 110頁.
4. 古賀一公 『「精神的自己実現」の教育—「精神的生命体」への道』 学援社 1995年 49頁.
5. 古賀一公 『「自己実現力」育てる—二一世紀の基本目標—(上)』 学援社 1997年7月 264頁.
6. 古賀一公 『「自己実現力」育てる—二一世紀の基本目標—(下)』 学援社 1997年11月 335頁.
7. 福岡「ひとり学習」の会・古賀一公編著 『自己実現力が育つ授業—「学習・援助」の革新—』 学援社 1998年 250頁.
8. 古賀一公 『「学級崩壊」からの教育再生—その鍵は「教育的制限」と「場による授業」—』（人間中心の教育セミナーブックレット No.3） 人間中心の教育研究会 2000年 58頁.
9. 古賀一公 『ひとり学習のすすめ〈理論編〉』 生活書院 2007年 160頁.
10. 古賀一公・田中義人編 『基本学力・基礎基本を育てる授業実践ガイドブック』 福岡「ひとり学習」授業理論研究所 2010年 441頁.

## 〈論文〉

1. 古賀一公 「学習者中心の学習指導法の性格の研究 〈第一年次〉— I 研究方法論の検討 II『学習者中心』の立場と現状の明確化—」 福岡県教育センター 1972年 3月 30頁.
2. 古賀一公 「学習者中心の学習指導法の性格の研究 〈第二年次〉—セラピストの『純粋性』の文献研究が、『学習者の独自性と援助者の独自性の矛盾』という問題の解決方向に示唆するもの—」 福岡県教育センター 1973年 3月 38頁.
3. 古賀一公 「学習者中心の学習指導法の性格の研究 〈第三年次〉—単元『自分の歩みを始めるの2』における香月さんの学習過程の理解—」 福岡県教育センター 1974年 3月 32頁.
4. 古賀一公・野鶴広士 「学習者中心の学習指導法の性格の研究 〈第4報〉—栗林さんの自己実現のために役立った『授業目標』の理解—」 1976年 9月 自費出版 58頁.
5. 古賀一公・野鶴広士 「学習者中心の学習指導における学習と援助の過程」 1978年 8月 自費出版 6頁.
6. 古賀一公・野鶴広士 「学習者中心の学習指導法の性格の研究 〈第二報〉—子どもの学習の姿とその特質—」 1978年 9月 自費出版 12頁.
7. 古賀一公・野鶴広士 「学習者中心の学習指導法の性格の研究 〈第三報〉—『教材単元』展開の基本的構造—」 1979年 9月 自費出版 12頁.
8. 古賀一公・野鶴広士 「学習者中心の学習指導法の性格の研究 〈第四報〉—『教材単元』展開の具体的姿—」 1979年 9月 自費出版 12頁.
9. 古賀一公・野鶴広士 「学習者中心の学習指導法の性格の研究 〈第五報〉—めあてをもって勉強するようになったN児の自己実現の過程—」 1980年 4月 自費出版 10頁.
10. 古賀一公・野鶴広士 「学習者中心の学習指導法の性格の研究 〈第六報〉—自己実現を援助する授業目標の条件—」 1980年 4月 自費出版 8頁.
11. 古賀一公・野鶴広士 「学習者中心の学習指導法の性格の研究 〈第七報〉—自分の力で学習の喜びを広げていったY児の成長の過程—」 1980年 4月 自費出版 23頁.

12. 古賀一公・野鶴広士 「学習者中心の学習指導法の性格の研究 〈第八報〉  
—子どもを見る目と指導の効果—」 1981年6月 自費出版 18頁.
13. 古賀一公・野鶴広士 「学習者中心の学習指導法の性格の研究 〈第九報〉  
—4年国語『小さな青い馬』の指導案—」 1981年6月 自費出版 14頁.
14. 古賀一公・野鶴広士 「学習者中心の学習指導法の性格の研究 〈第十報〉  
—『学ぶ力』とは具体的にどんな力か—」 1981年5月 自費出版 15頁.
15. 古賀一公・野鶴広士 「学習者中心の学習指導法の性格の研究 〈第11報〉  
—自己実現力を育てる授業方法の条件 (その一)—」 1982年11月 自費出版  
12頁.
16. 古賀一公・野鶴広士 「学習者中心の学習指導法の性格の研究 〈第12報〉  
—国語の学習における『学ぶ力』の具体化—」 1982年11月 自費出版 12頁.
17. 古賀一公 「小学校における学習課題の工夫」 『社会科教育別冊』 2号  
1984年8月 113-118頁.
18. 古賀一公 「自分を見つめ、不備を補えるようにする手立て」 『授業研  
究』 278号 1985年5月 28-31頁.
19. 古賀一公 「ひとり学習における自己教育力の育成」 『社会科教育』 271  
号 1985年6月 59-63頁.
20. 古賀一公 「人間中心の教育と『ひとり学習』」 『人間中心の教育』 No.2  
1985年11月 3-6頁.
21. 古賀一公 「自己学習力を育てる授業の条件」 『現代教育科学』 350号  
1986年1月 30-35頁.
22. 古賀一公 「場による授業」 Academia 155号 1986年1月 69-74頁.
23. 古賀一公 「人間中心の教育と『ひとり学習』(二)」 『人間中心の教育』  
No.3 1986年11月 17-20頁.
24. 古賀一公 「人間中心の教育と『ひとり学習』(三)」 『人間中心の教育』  
No.4 1987年11月 16-20頁.
25. 古賀一公 「人間中心の教育と『ひとり学習』(4)—人間中心の教育とは○  
○である—」 『人間中心の教育』 No.5 1988年11月 52-55頁.
26. 古賀一公 「人間中心の教育と『ひとり学習』(5)—人間中心の教育の〈理  
念〉は〈人材養成〉でも〈文化伝達〉でもない—」 『人間中心の教育』 No.6  
1989年6月 48-51頁.

27. 古賀一公 「人間中心の教育と『ひとり学習』(6)―人間が存在している  
〈意味〉は『自己実現』である―」『人間中心の教育』 No.7 1990年6月  
50-53頁.
28. 古賀一公 「『目的』は《自分自身の成長》である―福岡『ひとり学習』の  
会・五年の歩み―」『人間中心の教育』 No.8 1991年6月 70-73頁.
29. 古賀一公 「人間中心の教育と『ひとり学習』(7)―身体的・社会的・文化  
的な自己実現と《人間性》から見た『自己実現』とは別のものだ―」『人間  
中心の教育』 No.9 1992年6月 51-55頁.
30. 古賀一公 「人間中心の教育と『ひとり学習』(8)―今日、人間中心の教育  
は『人間性とは何か』という基本問題に正対しなければならない―」『人間  
中心の教育』 No.10 1993年9月 36-39頁.
31. 古賀一公 「人間中心の教育と『ひとり学習』(9)―《人間性の問い直し》  
は近代ヒューマニズムに立つだけではいけない―」『人間中心の教育』  
No.11 1994年8月 57-60頁.
32. 古賀一公 「人間中心の教育と『ひとり学習』(10)―人間中心の立場に立つ  
ものは、人類の『同族殺害』をどう説明するのか―」『人間中心の教育』  
No.12 1995年8月 41-44頁.
33. 古賀一公 「目の前の『ひとり』から出発する『人間中心の教育』を」『人  
間中心の教育』 No.13 1996年8月 4-7頁.
34. 古賀一公 「人能弘道 非道弘人也 (もう一度『大賀先生随聞記シリーズ』  
第1回)」『ひとり学習』 No.1 1998年6月 18-19頁.
35. 古賀一公 「『教育的視線』で見ると―腰塚美代子先生の《勇氣》を讃える  
―」『ひとり学習』 No.2 1998年11月 18-23頁.
36. 古賀一公 「砂漠に木を植える (もう一度『大賀先生随聞記』シリーズ):  
第2回)」『ひとり学習』 No.2 1998年11月 36-37頁.
37. 古賀一公 「自分で考えなさい (もう一度『大賀先生随聞記』シリーズ):  
第3回)」『ひとり学習』 No.3 1999年2月 6-7頁.
38. 古賀一公 「『教育的視線』で見ると2:腰塚美代子先生を悼む記事がな  
い?」『ひとり学習』 No.3 1999年2月 14-19頁.
39. 古賀一公 「“君の言う『道徳』とは何ね”―本質への問いを自分で考える―  
(もう一度『大賀先生随聞記』シリーズ):第4回)」『ひとり学習』 No.4

1999年6月 6-7頁.

40. 古賀一公 「『教育的視線』で見ると3：これは『反教育的視線』…？—教育的問題を見るとき視線の性質—」『ひとり学習』 No.4 1999年6月 16-21頁.
41. 古賀一公 「“使った言葉には責任を持ちなさい”—自分で考えることの大切さ—(もう一度『大賀先生随聞記』シリーズ：第5回)」『ひとり学習』 No.5 1999年11月 6-7頁.
42. 古賀一公 「『教育的視線』で見ると4：腰塚先生の死の『無視』は何を《意味》しているのだろうか？—『色眼鏡的視線』—」『ひとり学習』 No.5 1999年11月 10-15頁.
43. 古賀一公 「“ぼくは自分の問題を持っているよ”—自分の問題を持つことの大切さ—(もう一度『大賀先生随聞記』シリーズ：第6回)」『ひとり学習』 No.6 2000年2月 6-7頁.
44. 古賀一公 「『教育的視線』で見ると5：これが今日の日本の教育崩壊の『原因』だ—『イデオロギー的視線』は反教育的性質を持つ—」『ひとり学習』 No.6 2000年2月 10-11頁.
45. 古賀一公 「“電車で知人に気付くのはなぜか？”—自分で考えることの大切さ—(もう一度『大賀先生随聞記』シリーズ：第7回)」『ひとり学習』 No.7 2000年6月 6-7頁.
46. 古賀一公 「“自分で考えてみようと思ったが”—授業での自由課題体験の大切さ—(もう一度『大賀先生随聞記』シリーズ：第8回)」『ひとり学習』 No.8 2000年11月 6-7頁.
47. 古賀一公 「私の大きな壁『記憶力の弱さ』」『ひとり学習』 No.8 2000年11月 51-53頁.
48. 古賀一公・正子 「『教育的視線』で見ると 特集：学級崩壊を『教育再生』のチャンスにする—その鍵は「場による授業」への転換—」『ひとり学習』 No.9 2001年2月 40-55頁.
49. 古賀一公 「“自分の『問題』を自分で考える”—自分の実践に生まれた問題を考える—(もう一度『大賀先生随聞記』シリーズ：第9回)」『ひとり学習』 No.10 2001年6月 6-7頁.
50. 古賀一公 「“自分で考える力を育てる方法” ①—育ちの道筋に沿った育て

- 方の工夫を—(もう一度『大賀先生随聞記』シリーズ』：第10回)」『ひとり学習』 No. 11 2001年11月 6-7頁.
51. 古賀一公・野鶴広士 「通知表の成績を子どものノートでつける—自分の授業の実態にあう評価の方法を考える—(『ひとり学習』の具体的方法の紹介コーナー：4)」『ひとり学習』 No. 11 2001年11月 8-9頁.
52. 古賀一公 「“自分で考える力を育てる方法”②—“…とは何か”と『本質』を考える—(もう一度『大賀先生随聞記』シリーズ』：第11回)」『ひとり学習』 No. 12 2002年2月 6-7頁.
53. 古賀一公・野鶴広士 「『自分で勉強できるようにしたい』という願いを強く持っていたから—実践の具体的方法を次々と生み出す秘訣—(『ひとり学習』の具体的方法とその意味の紹介コーナー：5)」『ひとり学習』 No. 12 2002年2月 8-9頁.
54. 古賀一公 「“自分で考える力を育てる方法”③—本質を自分で考える—(もう一度『大賀先生随聞記』シリーズ』：第12回)」『ひとり学習』 No. 13 2002年6月 6-7頁.
55. 古賀一公 「“自分で考える力を育てる方法”④—本質を自分で考える—(もう一度『大賀先生随聞記』シリーズ』：第13回)」『ひとり学習』 No. 14 2002年11月 6-7頁.
56. 古賀一公 「“自分で考える力を育てる方法”⑤—それがどのように育ったかを考える—(もう一度『大賀先生随聞記』シリーズ』：第14回)」『ひとり学習』 No. 15 2003年2月 6-7頁.
57. 古賀一公 「“自分で考える力を育てる方法”⑥—『新聞の社説を読んではいけない』—(もう一度『大賀先生随聞記』シリーズ』：第15回)」『ひとり学習』 No. 16 2003年6月 6-7頁.
58. 古賀一公 「“自分で考える力を育てる方法”⑦—読む前に自分で考える—(もう一度『大賀先生随聞記』シリーズ』：第15回)」『ひとり学習』 No. 17 2003年11月 6-7頁.
59. 古賀一公・正子 「“三つの『よく生きる力』の育成”を小中高校教育の一貫教育目標にすること—授業づくりの必要にして十分な条件の試論的仮説(予告編)—」『ひとり学習』 No. 18 2004年2月 40-69頁.

古賀の研究業績の一端は『古賀一公先生と「ひとり学習」 古賀一公追悼集』に収録されている。本研究は、『追悼集』刊行会事務局の田中義人の協力を得て、1972年以降の著書、論文を網羅しており、古賀一公研究、『ひとり学習』成立史研究の基礎資料となるものである。

今後の課題として、これらの文献を解読し、ひとり学習の成立を明らかにするとともに、ひとり学習の普及・発展を跡づけたい。

## 註

- （1） 古賀一公先生追悼集刊行会編 『古賀一公先生と「ひとり学習」 古賀一公追悼集』 2014年 261-263頁.
- （2） 古賀の研究業績の内、1972年以前のものと、機関誌『ひとり学習』以前の会報に発表されたものは未整理である。